

AI 時代における 学校音楽教育の 新たな意義

AI 時代を迎えた今、人間形成を担う学校教育のあり方が問われています。社会の急激な変化の渦中において「感性を育てる教科」といわれてきた学校の音楽教育の存在意義は一体どこにあるのでしょうか。AI 時代のいまこそ学校音楽教育の果たすべき役割は何か、みなさんと一緒に考えたいと思います。

2025 年

5月10日(土) 13時30分～16時30分

会場

東京・国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟・国際会議室

参加費

2000円

全体司会：宮澤多英子（川口短期大学）

第一部

基調講演 1 脳科学からみた AI 時代における音楽・芸術教育の意義

小泉 英明（公益社団法人日本工学アカデミー顧問）

基調講演 2 AI 時代におけることば、身体、学び

今井 むつみ（慶應義塾大学）

第二部

実践報告 リアリティを実感する学校音楽教育の実践

小学校 音楽づくり「阿波踊りの囃子詞」 齊藤 佐和（徳島県吉野川市立鴨島小学校）

小学校 音楽づくり「つるしたものの音」 高橋 詩穂（京都教育大学附属桃山小学校）

中学校 鑑賞「魔王」 柿谷 隆子（京都市立洛北中学校）

高等学校 創作「コード進行にのせた歌づくり」 鈴木 健司（東海中学校・東海高等学校）

第三部

シンポジウム 「AI 時代における学校音楽教育の新たな意義」

進行：清水 匠（土浦市立土浦第五中学校）

シンポジスト：

脳科学研究の立場から：小泉 英明（公益社団法人日本工学アカデミー顧問）

認知心理学の立場から：今井 むつみ（慶應義塾大学）

ジャーナリストの立場から：吉田 純子（朝日新聞論説担当）

学校音楽教育の立場から：清村 百合子（京都教育大学・本学会代表理事）

参加申込はこちらから



申込 URL (Peatix)

<https://ongakujissen30.peatix.com/>

開催趣旨

本学会は学校音楽教育を研究対象とし、「理論と実践の統合」を基本理念に設立され今年 30 周年を迎えます。この 30 年の間、社会は大きく変化を遂げてきましたが、私たちはその間、一貫して表現する子どもの姿を追い続け、音楽授業の創造に尽くしてきました。

AI 時代到来の今、これまで学会で蓄積してきた授業実践の意味を改めて問い直す時期がきています。基調講演では脳科学者の小泉英明氏から脳科学において芸術教育が人間形成に如何に寄与するのか、また認知心理学の今井むつみ氏からは人間の学びの過程でいかに直接経験が重要か、ご講演いただく予定です。

学校の音楽の授業では、子どもたちは生活経験で感じ取ったりアリティある世界を音を通して嬉々として表現します。質的世界そのものを表現したり認識したりすることはデジタルの世界ではなし得ないことです。本シンポジウムがこれからの学校音楽教育のあるべき姿について考える機会になれば幸いです。

シンポジウム講師プロフィール



小泉 英明

(株)日立製作所役員待遇フェローを経て名誉フェロー、東京大学先端科学技術研究センターフェロー・ボードメンバー、(公社)日本工学アカデミー(前上級副会長)。国際理工学アカデミー連合理事、中国工程院外国籍院士・東南大学荣誉教授、米国・欧州・豪州などの各種研究機関や財団のボードを兼務/歴任。著書に『脳は出会いで育つ:「脳科学と教育」入門』(青灯社)、『脳科学の真贋: 神経神話を切る科学の眼』(日刊工業新聞社)、『脳の科学史: フロイトから脳地図、MRI へ』(角川 SSC 新書)、『アインシュタインの逆オメガ: 脳の進化から教育を考える』(文藝春秋社)、『脳科学と芸術: 恋う・癒す・究める』編著(工作舎)などがある。



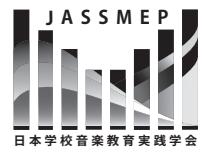
今井 むつみ

1989 年慶応義塾大学大学院博士課程単位取得退学。1994 年ノースウエスタン大学心理学部 Ph.D. 取得。専門は認知科学、言語心理学、発達心理学。主な著書に最新刊『学力喪失』(岩波新書)や『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか?』(日経 BP) など。共著に『言語の本質 ことばはどう生まれ、進化したか』(中公新書、「新書大賞 2024」大賞受賞)、『算数文章題が解けない子どもたち』(岩波書店)などがある。国際認知科学会(Cognitive Science Society)、日本認知科学会フェロー。

日本学校音楽教育実践学会

<http://jassmep.g2.xrea.com>

1996 年創設。「学校教育」「音楽科教育」「教育実践」をキーワードとし、理論と実践を相互に関連させながら、学校の音楽教育の理想とそのあり方を研究する学術団体。学校音楽教育に関心をもつ大学教員、大学院生、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員、行政関係者など、学校音楽教育に直接携わる会員が多数所属。学会刊行物として、『生成を原理とする 21 世紀音楽カリキュラム』(東京書籍)、『音楽科カリキュラムと授業実践の国際比較』(音楽之友社)、『日本伝統音楽カリキュラムと授業実践』(音楽之友社)、『音楽教育実践学事典』(音楽之友社)、『音楽的思考を育てる資質・能力スタンダード』(図書文化)などがある。



日本学校音楽教育実践学会 検索



学会 HP

シンポジウムの充実した運営と、学会の今後の学術活動推進のため、「設立 30 周年祝金」の募集も行っています。シンポジウム参加申込の際、チケット購入ページ Peatix 上で受け付けています。ご検討いただければ幸いです。

問い合わせ先 | 学会事務局 ongakujissen@yahoo.co.jp